



元紫紀行卷十

○六月十四日晴卯刻過小湯島の宿と立出川舟に乗

て十二三丁南小行ハ樂々の浦此あり川濶廣く

湖の如し二三丁計小して上陸して五丁計行ハ飯谷村

湯島より
是より半里農家三四十軒あり是より峻き山坂を五丁

計上りて十丁あり下り下きハ幡上村飯谷村より
是より半里村あり

一丁計北を行道をれば家居ありのさぬをばえあり

是より谷合なる細道を経て漸く小山乃尾を廻り

登りゆりハ三原村幡上より是
より半里道より半丁計北の方

小あり道傍ふさし出するハ農家一二軒ありこれより

○卷十

十丁計峻さき一き坂を登こ久美峠とて但馬と丹後との國境をり北ふありて重山の間より久美の湊北海の灘なみふど見えよされと眺望の景色よく吹来ふきふ風もいとぞし内もぞいと寂さび歴び一き山中ありて立入べき茶屋一軒ふにかた松陰の岩石小腰うちうけて草下の清泉小唇を潤すのこなる紙伴ふ人こびげふ思ひよときて長生の彭祖くわんそも外のホいとなくぞ谷水をむむび飲のらしとまけばとく仙人小きぬとむいふ此水も水とゆいしてのめば水みづれとて伴ふ中より酒や思いてのこもふ小猶水をうとる人を皆笑いつて立あがりて

二十丁計下まき入海の濱邊ふありとるぬ北海より一里半をより入込る海濱ふてとありけり山々の形状かたちよりけり甚観かん愈いしていんるな紀佳景けいけいの地なり十丁計行バ丹後久美濱三原より是まで一里半御公領あり沛代官塩谷大四郎殿の陳屋幕のあり町屋五丁ある一丁ごとふ小川を境とて土橋をうけり宿屋茶屋あり紙湯嶋しづとこれまうでふとめての事と珍らうとる又絹きぬを織家多し出口小靈鴨山本願寺とふ寺あり浄土宗圓光大師の舊ふる跡せきあり是より谷合の道みちを山深く分入聊いさづ坂を登りて二十四五丁行バ堺村人家二十軒入口小茶屋



丹後国
比治岬
旅人
暑をこ
ふ所圖



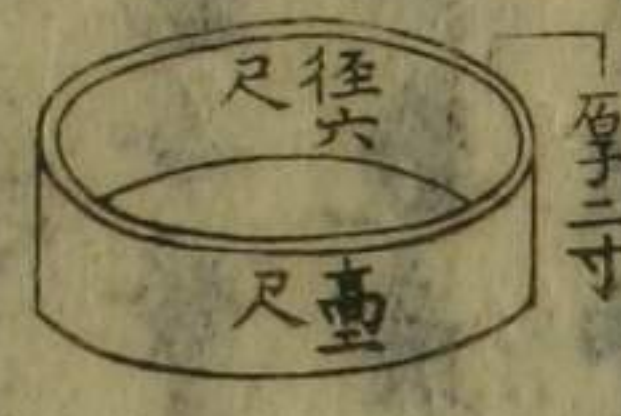
あり引けりて二ヶ村佐野より是人家六七十軒郷なぐり町小て宿屋茶屋あり大坂屋次兵衛との小宿ふ此あるも縮緬ちぢめんを織出おりだす御公領と峯山領と入交まじまる所なり

○十五日今日より卯刺過小立出十丁餘行あまバ小川あり土橋より渡ふ又十丁計ゆけバ新治村あひだり農家三四十軒八丁計行バ長岡村人家六七十軒茶屋宿屋ありこのあり聊いささげ坂ありまじり道はより十丁計ゆけバ善應寺村ニヶ村より是人家四五十軒茶屋あり四五丁行バ北ハ峰山領南ハ宮津領との表あをより十丁計ゆけバ大野村善應寺より人家五六十軒茶屋宿屋あり縮緬を織家多し十四五丁

行バ三坂村人家二十軒計茶屋あり此所小太閤の小袖掛の松とて三本あり小坂と越て十五六丁行バ三重村人家三四十軒茶屋あり此村ハ神名帳小丹後國與謝郡三重神社とある地しころ小ハありざり尋ねて詣まりれば今日ハ障さかるふありてやゝぬき久美より此ありまじり田の艸くさをとるをりる小ちひさき竹たけ小こ琴この瓜つめのやうなる物と作ゆりて指ゆび小ことありて草くさを取とり土堅つちくくたふ指ゆび少すくてはとられんとあり二十丁計瓜先うりま上うる小登のぼり入いるバ樗あし峠たけ小至こふこの所より此小至こ音小聞及おと一い天の橋立又ハ岩滝江尻等の景地ちも眼め下くだふ入いて入海いる北海の大灘おほまじり一望いち乃内

小あり珍しく面白くして心目と豁開きり。空をくぐると地を加
 賀の白山。若狭の松尾山。丹後此由良山。越前の山々までも見
 えり。こゝまで殊小絶景なり。今日ハ少く陰り。こ
 もささまでハハんと。是より甚も峻き坂と十丁餘り
 下りて。弓の木村小至ふ。人家七八十軒茶屋宿屋多し。
 家々小大形縮緬を織出せり。引つゞきく岩瀧村。
 大聖より是
 まで三里 人家二百軒計宿屋茶屋あり。此所より舟
 乗て宮津へ渡ふ。歩少く行時ハ南村。溝尻村。江
 尻村。成相寺。橋立。宮津と経行。行つとよ。さて半里どり
 海上を行く。溝尻村より成相寺小詣つ。峻き山坂と十

八丁登り行。十五丁目小茶屋四五軒あり。上小二王門あり。ふ
 因り門前茶屋と稱す。此所より心おろそ橋立の景色。
 言語小絶す。二王門小今磴道一丁計登り。鐵の手水
 鉢あり。



圖の如く俗小酒呑童子が飯椀と云ふ
 いやへ何小用ひする物なり。今ハ知れり。

又二丁登り。寺あり。鐘樓堂。熊野権現。本堂。聖徳
 太子の御草創。正観音と安置せり。西國巡禮観音の
 二十八番小あり。せきまのつし。ま。此寺小頼光公の御願文

とて

攝津守源朝胤

此度當國大江山為夷賊

追討蒙

勅令發向訖速祈

觀音大士之擁護所可

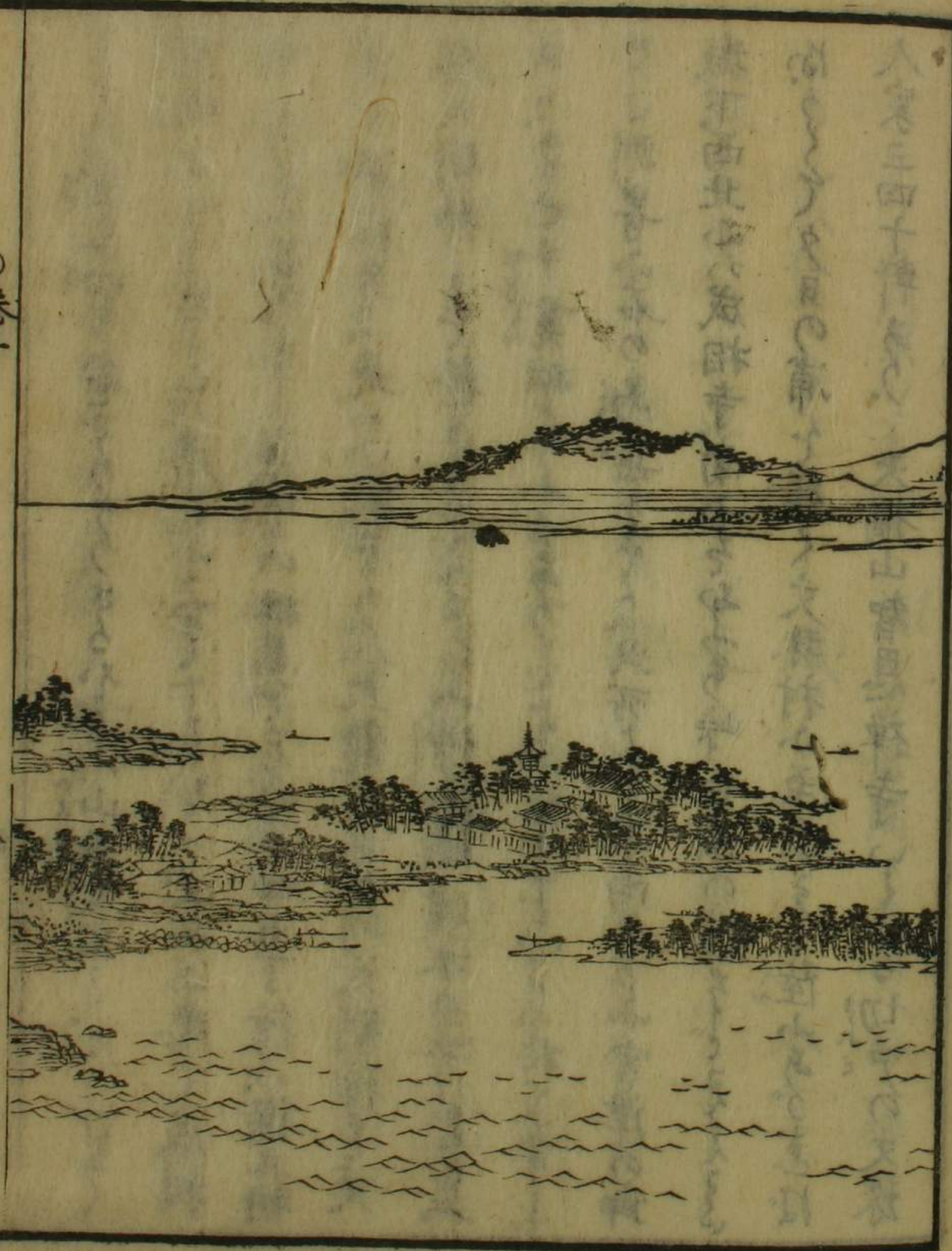
被抽丹誠条如件

敬白

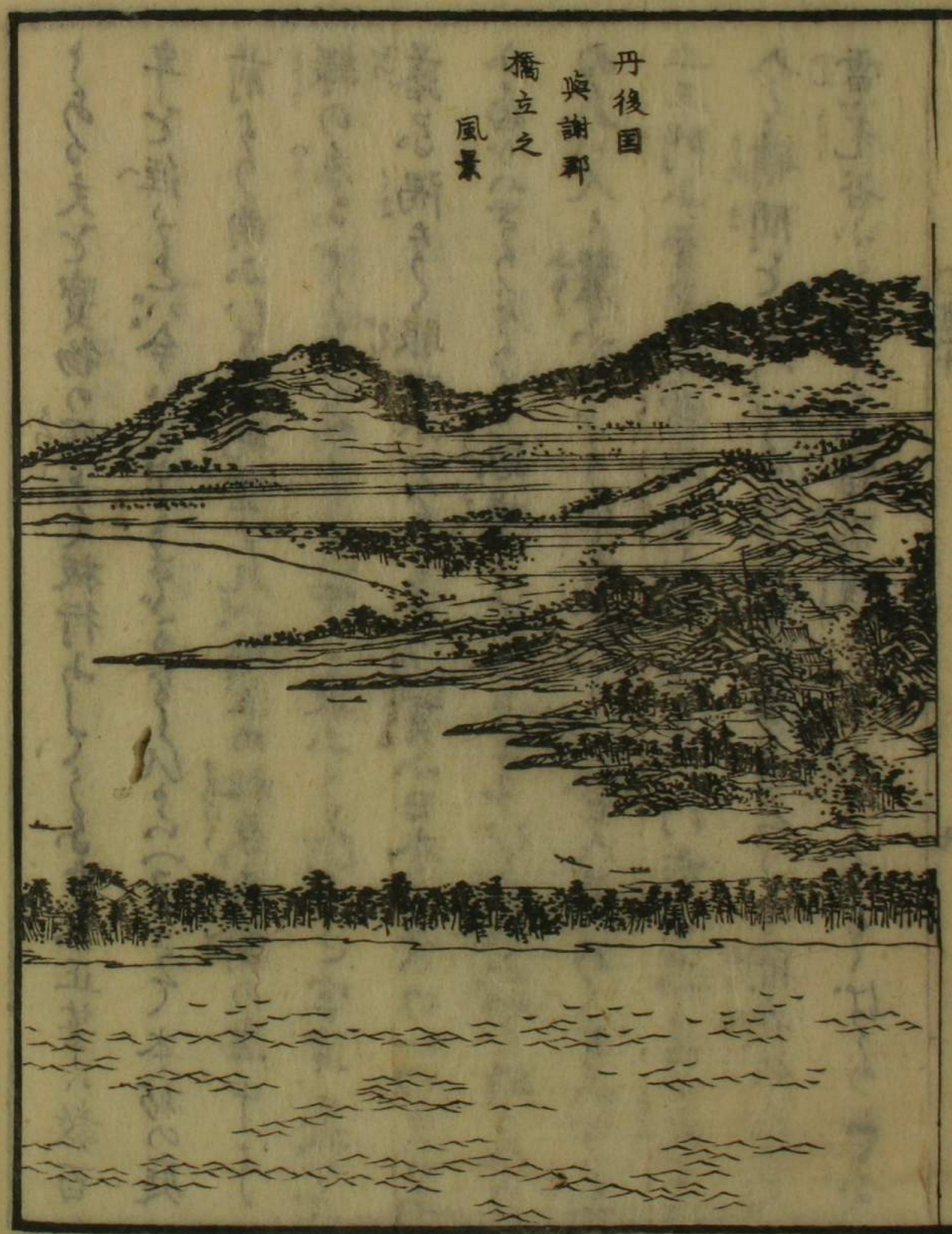
寛仁元丁巳三月十日

成相寺 衆徒

とある文と寶物の寫とて板行ありてうふたり。正筆ハ數百
 年と経つとバ今ハ文字もさうなるんといへり。さて本坊の庭
 前より南ふじの眺望せんバ橋立の松原與謝の海中より
 緑の系ふどちちとらんやう浪ふうび。まご宮津の城など
 落ふ隅をく眼下ふんえんころ。實小日本三景の一つといふ
 ふゆがはざりたりと感嘆してうちをがむる間ふや時うり
 めんば人々麓ふくごらんといふよりてせんすばやく下ふ
 二王門ふ至りて雷雨俄小降出まバ門前の茶屋小走り
 へく晴間とまらむるやふ黒雲うきくし闇夜のふとく
 電光谷ふちちくく雷鳴頻みく山もくづるくげく舞ふ



丹後国
與謝郡
橋立之
風景



くろんば生ふ心ちハせざりたり。さるやふ山風吹出さるげあり
空暗くくろりぬまに溝尻ふくま下ふかくて又舟に乗て成相
寺より見おろさる海中の松原をえり。十四五丁行ハ橋立明
神の御社あり。是ハ小社なり。ハ大龍王と大川大明神と天
橋大明神とを祭まるなり。とらふ傍小磯清水の井戸あり
あり。まろく千貫松とらふありしより好まざりといふハ枯てなり。
まろく洲寄小石の鳥集をそり。此所より東南の方小宮津の御
城下西北ハ成相寺南ふとあり。峠白糸の濱をいづらん。こ
ゆるくく夕日の浦を經く文珠村小至ふ。さて陸ふあがまば
人家三四十軒あり。天橋山智恩禅寺いづゆる切戸の文珠

あり。まろく大門ふかき上額の黄金閣。下の額ハ海上禅叢
とあり。成相寺なると同じき鐵の手水鉢あり。本堂ふく
文珠菩薩を安置す。百文と奉り。開帳をゆるさる。こ
拜も。ふまふハ蛸の香爐。鱧の鯛口をやりあり。其の
外小宝物ものあるとも百文と以て拜見をゆるさる。女牛玉
男牛玉。白馬角。天狗爪。龍の鱗。鮑の玉。法螺貝
の玉。榎の木ふかりし鎌。龍の卵。豊臣の太閤朝鮮
御征伐の時の陣中ハ弁當箱。是等なり。本堂外
陳の額。五臺山黃蘗隱元書。丁酉仲春日とあり。聯ハ
神代降臨七佛祖。獅王擎足嘖呻。

天橋架起五臺山龍女獻珠擁護

内陳の額ハ智恩寺として懸ハ

天一地一忍總尊創久志渡基

前三後三延喜帝賜智恩寺額

とあり本堂ハ南向少く七間四方あり禪堂潔淨あり

庭あり少く額ハ同居窟東華貞谷書とあり寺を妙

心寺の派あり寺領五十石とあり大門の前ハ濱邊の舟附ふて

○人如此形の石燈籠をそとあり正月と六月の廿四日ハ龍

燈を奉ふとあり燈籠の前ハ茶屋五六軒あり豆腐的弱

の田樂を分別の田ホと名じも小豆餅を智慧の餅と

をづけ酒と思案酒と名じもてあり即立入て豆腐の田ホを

肴小くうの思案酒とのまんともあり甚苦くて飲べくもあり

ざらふ主け女ハ年経る老婆あり智ハいふありん形いと

きこをげふ見えざりけ終ハ辛うじて一盃とのこりありて

又舟小のまばまて雷雨頻ふり出て苦漏平のいと苦れど

波の静なるふ心わくともありして浦とてなぐめ名所とてい

きててちるぐさつ宮津の方へ向て漕いび入海の真中小あり

アハハの橋立の洲崎江尻村より凡三四十丁計きり出あり

濶ハ十間小過ざりて振ふき松も作り成りてありんや浪

うち際ふ枝をよきとてふ並とてつ洲の東れ方あり

よふ波ハ北海より直まふよせくるなりあればいと荒く西の方ハ内
海をれば静しづなり。此洲寄と文珠村との間二十間計きれる。成
九世渡ことも切きれともいふなりとつて。かくて見上 岩 龍燈臺。
涙の磯。此磯ハ和泉式部此所こふて小式部と別わかきを惜おぼし
りの名をりとりふ。又 雞塚。とさう松。此ハ此里困窮小至
らん時堀出すべしと。文珠の御誓ひふて金の雞一にぐひを此
塚の下小埋うづめをさおきまへりといふ。犬の堂。此ハ戒岩寺と智
恩寺と兩寺して犬一つを飼かるが。兩寺一度小鐘かねを鳴なり
すをききて。何方いづれふう行人やうじんと行つ戻りつして罷つかま死しせしと
埋うめりる跡ありとて。林道春の文を彫うぐる石碑いしなりとて。かくて

宮津の城下小至ふ。文珠より是まで半里計なり。今日岩滝
よりこれまでのりる船賃五百文。船頭二人。一人八年老一
人ハ少せうし。其業わざふも似にぬ人よき者どもに。所ところふ舟をよせて
移うつりごふふさしをへ。又其所ところふはききる故事こじを。方言かたがた
をかくにこまぐと。やうききるを。聊たうも厭いとくむつ。きけき
えんえぬふ甚い心慰なぐさめて一入面白く覺えたり。此浦舟を
眺望。景色のよろし事ハ筆も詞も及およばぬハなむくふさ
並ならぬ。官津くわんづ 岩滝より 松平主計頭殿七万の沛城下をり。東
のふ沛城あり。西ハ入海ふて南ハ山なり。町屋三筋あり。く
長さ十四五丁。山を後のちへ入海を前まへへり。湊みなとふて。大船数艘

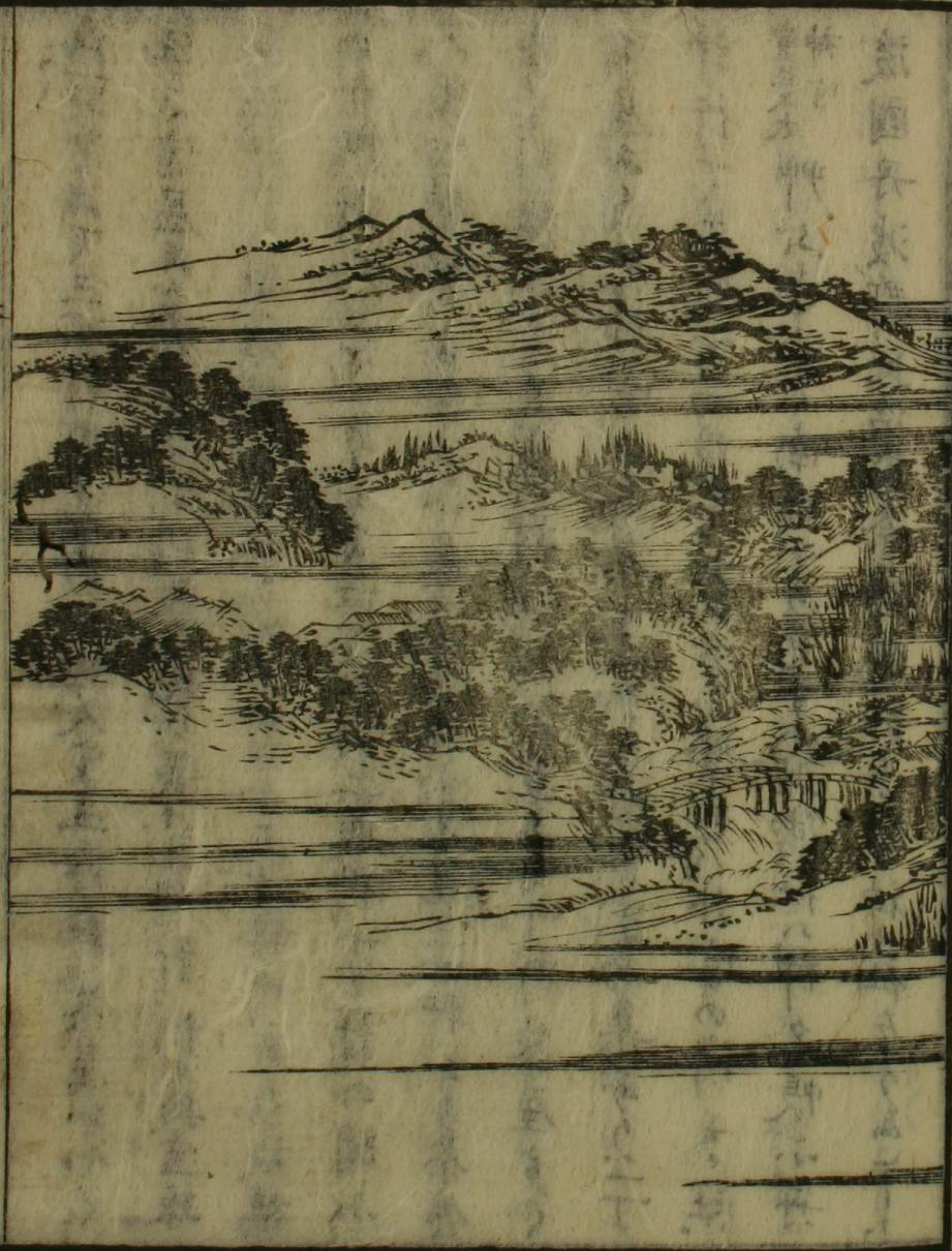
町乃際き小かまり。又由良船とく其形異様ことなる舟あり。是を此國の由良れ湊より出来いでふ舟をなりとぞ。摠ひて此入海一里四方小山を環めぐり。袋の底そこの様さまある湊より町屋ハ縮緬を高ふ家多く。宿屋多く。茶屋もあり。吉井屋庄八とふ小宿ふ。

○十六日晴卯刻過小宿を立出家中町二丁計行て板橋をもればく。や町長三丁計あり。町をもふる。松の並木あり道より。二十四五丁行を上宮津村。内城下より是。川あり。橋の長さ八間計。農家六七十軒。出口小茶屋あり。丁計行バ小田村。家四五十軒。まづ小あり。是より谷川の

縁をはりひ登ふ。石地より道より。金山村。関ヶ淵村をも。これ農家むなり。三十丁計。登まバん。茶屋入家二十軒計。離も。小あり。名ふおと。茶屋お。西國觀音巡礼の道をればあり。又十二三丁登ま。丑寅の方小宮津の城。入海北灘を。皆眼ぐ下ろ。佳景眼と。こら。又五六丁登ま。峠ふ。登り下りの坂險。急ま。道甚惡し。普甲峠と名は。増井の水と。清水湧出其冷や。事水の。右の方小大江山と高く。十丁餘り下ま。中の茶屋。人家十軒計。茶屋あ。食物と。五六丁下ま。バ

二瀬川農家十軒計茶屋あり。二瀬川小ハ長三四間計の
土橋をうけつらと渡りて右の方小行ハ大江山道岩屋まで
八丁ありといふ事とせざる事もなきやうとまけハ亭を
事もせで五六丁下まハ荒神ガゆり大なる岩ども道中小
横ぎまる其間をゆく道歩て甚行ぐ。二丁計くられを
佛生寺村。上官津村より
是より二里 入口小茶屋あり人家まむる小ハゆ十
丁計行ハ佛生寺の親村人家三四十軒あり是先ハ世小
いゆる元伊勢の御社あり細道十丁計行ていと細く峻
しき岩間の坂道の苔びりて滑らふ小ハやもなき所と二
丁計下まハ天の岩戸。拜殿。杉の荒木を以て造らるる。

鳥集をとりぎて川の邊小至ふより道といゆるもなぐ。山岩
鼻小取はきとて三十間計下り行ハ小宮あり此あり谷川の
中小岩多く急瀬の水くぐけたぐりて清潔小漲流
あり小兩岸小ハ緑の陰蔭蔚として誠小神さびる所
なり。川中小太神宮初湯の釜同き盥とてなる形。小岩
あり夫より險き路と一丁計登りて又三丁計行て御本社
内宮小至り拜し奉ふ。かやぶきの御有様伊勢小同し。
八十末社。白木の鳥集。馬頭観音。三本杉。松檜の木
の連理の枝。都かうと。なるといふもあり。すべ境内廣く
大きなる杉の木あまき。あり。甚も殊勝小貴き御社。



丹後国
丹波郡
比沼麻
奈井神
社之風
景
俗小
元伊勢
上



此所と出て三丁計ゆけバ内宮町人家五六十軒茶屋おろく
佳き宿屋あり町中小宮川あり橋の長さ三間計銅の擬宝珠
とけけり宇治橋と名づく町の出口小五十鈴川あり板橋
の十間計なるとけり五六丁行ハ二股村十丁計の間小
人家百軒計まぢりにあり其内小宿屋三四軒あり茶屋
を引續き天田内村是より人家六七十軒茶屋多く
宿屋あり即外宮の鳥集をり町中小鳥集あり二丁
計行て石段百四段を北の方小登まバ外宮の御本社
豊受太神宮 艸ぶき少く南向小立せま此御社ハ神名帳小丹
後國丹波郡比治麻奈為神社とある神社をり

八十宗社其外小宮あり内宮より境内せまされど神く
ふるありをり雄畧天皇の二十一年小神勅あ
り小因て同き廿二年小此所より伊勢ふるけりといへ
十丁計行ハ関村十人家七八十軒茶屋宿屋あり引續きて
河守町長さ五丁計商家茶屋宿屋多くよき町より町
より御公領と宮津領との境の表あり引續きて
蓼原村関村より人家七八十軒宿屋茶屋あり半里
計行ハ公庄村人家六七十軒宿屋茶屋あり十丁計山
のふもとをゆけバ境川村蓼原より人家五六十軒まづ
小あり出口小北ハ丹後南丹波と國境の表あり小川

のあるとからより渡りて五六丁行ばふの木川にてまきから
 よりこれ丹波天津村人家四五軒茶屋宿屋あり
 二十丁計行ば八木川潤十間ぶよりをりより
 四五丁行ばうしが鼻農家四五軒茶屋ありこれより
 山の麓と川ふとひく十丁計行ば荒川村人家三四十軒
 茶屋あり十四五丁行ば福知山の入口ふて郷町五六丁あり
 福知山埴川より尾朽木土佐守殿三万二千石の沛城下なる
 城の南のうふありて三重の天守あり入口惣門見付番所
 あり町数十五丁くすをふく町なるよりしうす茶屋
 興助とよ宿ふ此所銀札と通用す十文より一歩まであり

○十七日陰卯刻過小立出城の堀際を通りて惣門を出く
 松の並木ある道をは九丁ゆけば堀村福智山より人家二三十
 軒茶屋あり二丁計行ば大川ありぬづ川より右ハ岩山乃根
 左ハ川岸と二十丁計行ば岩間村人家十四五軒茶屋あり是
 より小坂のある山道を登りて下りて十五六丁行を下竹田村
 福知山より人家三四軒茶屋宿屋あり四五丁行ば中竹田村
 人家百軒あり茶屋宿屋あり村續小上竹田村人家五
 六十軒茶屋宿屋少あり下竹田より此所まで半里より
 人家立はりり十丁計行を岡本村下竹田より人家二三十軒
 茶屋宿屋あり十余丁行ば市島村人家三四十軒茶屋宿屋

あり。村の出口小川あり。十丁計の板橋をくけり。二丁むら行ハ
神田村。四五丁行ハ梶原村。とも小農家のくまむらにあり。三十丁
計ゆけバ小だり村。岡本村より
是まで一里半人家三四十軒茶屋宿屋あり。
十餘丁行ハ野上堅村。人家四五十軒茶屋宿屋あり。十餘丁
行ハ國領村。小たより
是まで一里人家七八十軒茶屋宿屋あり。二十
丁計峻さかしき坂と登りて國領峠小至り。又二十丁計峻さか
しき坂を下り。登りしとむらと小石多き道にて折小ハ大
岩立ふさむり甚かん險難なり。坂を下りてゆるくせハ右乃方小三
田越こま小但馬小行をあり又志が行追入村。國領よりこれ
まで一里半人家四五
十軒茶屋宿屋あり。四五丁行ハ大山組とつゝを惣名小て

宮村。大山村。大山下村。明野村等一里計の間小打續つらり。人
家すて三百小あり。茶屋宿屋所と小あり。中程小
京小ゆるむらの追分あり。村ととも小洞ほら六七間の川あり。り橋
あり。十四五丁行ハ西古佐村。引ひきて東古佐村。とも
農家のくまむら。十丁あり。行ハあま村。追入村より
是まで二里余人家五
六十軒茶屋宿屋あり。播磨屋岡右衛門とらふら宿る。正驛しんじまき
小あり。間の宿をゆるゆに宿よりす。

○十八日晴。寅刻小立出。十丁計行ハ牛ガ脊とてえ穢多村あり。
十丁計行ハ犬飼村。人家三四十軒茶屋あり。又行ハ夫代村。引
ひきて同ノ村の新田とらふ。小農家計をあり。十丁あり。行て

波賀野村四五丁行ハ古市の駅進より是人家二百軒むろ
 茶屋宿屋多し此所こゝ小至く夜くドめてあけり驛中小
 観音巡礼の道の追分あり十丁計行ハ油井村人家三十軒
 計茶屋あり此あり茶園あり茶をたたく製し出を所
 ちり是より五六丁山道をのぐれば秀坂峠丹波と攝津
 との國境ありくくして五六丁下まきバ秀坂村茶屋あり十丁
 計行ハ攝津あいの町古市より是三田の津領なり人家二三
 十軒茶屋あり一里行ハ新田村人家三四十軒茶屋あり十四
 五丁行ハ四辻村農家のくあり五六丁行ハ長坂村人家二十
 軒計茶屋ありサハ行ハ廣野村人家三四十軒茶屋あり

引はきて加茂村人家三四十軒茶屋宿屋あり十丁むろり
 ゆもバ多びす村本名ハ野上村人家三十軒計茶屋あり三四丁
 行ハ福島村五六丁行ハ大原村茶屋多し十餘丁行ハ川除村
 人家十軒計茶屋あり三四丁行ハ三輪町町屋とて三丁計
 入口小三輪の明神の社あり引はきて三田町九鬼和泉守殿
 石三万の在所あり入口小川あり町家長さ十丁ありくく丁やおろし
 町並福智山よりくろし茶屋宿屋あり四五丁行ハ横山村
 茶屋あり是より坂道一丁計下マ行ハ濶くろ一間計の川のある
 小土橋をくくせり山姥月見の橋とく十丁ありゆけは
 濶くろ十四五間の川のある成なり川向ひく道場川原

あいの町より 人家百軒あり茶屋宿屋多し。四五丁行バ日下部村。
是より四里 十丁餘り行バ平田川。潤十四五間ありと歩より川向ひ。
平田村人家五六十軒 茶屋宿屋あり。是より山道の石地
あて、おの外行ぐに休むに甚苦し。かくも
爪先上りふ二十丁あまりのわりゆあバ谷川あり。土橋より
ふふ二三丁行バ赤坂村。引けきて東久保村。此所をどきて
峠小むまは。大坂の城くるふくゆ。そよより坂を下りゆく
まゝ。人家あり。此茶屋宿屋多し。獨鈷水やうふ清水
宿屋のうにあり。三十丁計下まバ名塩村。人家すく四百軒
むらり茶屋宿屋多し。此所鳥の子。麻。杉葉紙を漉家多し。

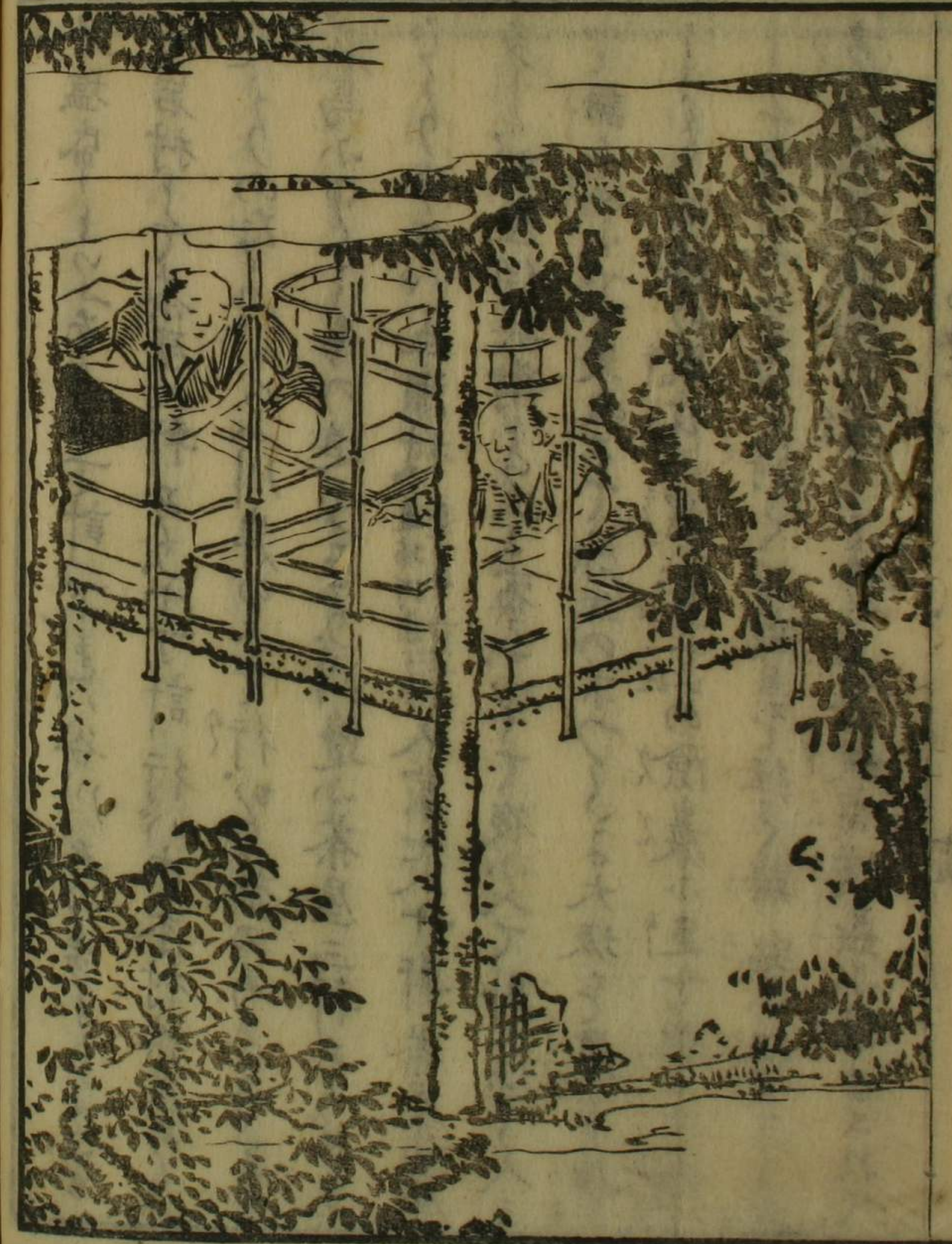
名塩帝とつをり。十丁計下まバ谷川あり歩より。こころ。
金岩村とて茶屋四軒あり。十丁計行バ木本村茶屋あり。
是よりのた川とふ川岸の上を行かり橋のあふあころ
在馬小ゆくころの追分なり。川邊小茶屋三軒あり。半里
むらりゆけバ生瀬村。道場河原より 人家七八十軒 茶屋宿屋
多し。問屋伊兵衛とらふ宿ふ。かくて夜小入て卧たぐり人々
や語ふ間小や更ぬ。さて弥生の末つころ大坂を纜を解
しより。西海の風波小漂ひ。豊山の險巖小足と抵て漸く
くして長寄小至り得く。百餘日を経く。歸路小趣き。一
晝ハ炎暑煩渴の苦し。あり。夜ハ蚊雷蟻蟲小惱まされて。

撰州
名塩
村
里人
紙漉
圖



○卷十

二十



○卷十

いと短き夢をばにじむびよふれば

ふらふらに寝るもなみのるまをさるまゝ久しくと
くありたりたりおどろひつらうめあば人くもげ小夏の旅行
かどくまききものあどじとそともふう先くさく故郷の音信
をひさしくきうさまは一人おのひ出ふ事頻なりけると明日
こそは大坂小至るく安否れやうをもきくべけきと互小のこ
らひひり心急ぎのせしれける

○十九日晴卯刺前小立出口小川あり川をまゝりて川面
村・米谷村・小濱驛是より四里・あくら村・姥う茶屋・中野村
こやの池・こや驛是より一里・南野村・塚口村・上坂部村・下

坂部村・久く知村妙見の寺あり・神寄驛是より三里・加島村・三津
屋村・今里村・堀村・十三村・三番村おどろきをまぎて大坂
小至ふ右の村くの事ハ委しく攝津名所國會小出されバ
今もこゝろさびさそて未の刺をぐんさ河内屋四郎太郎が
家小到りけきて我家小くまふじく心落居て休息れば
中々小甚く罷こころ出たりけきさそて伴ひつら人と共ふく
恙なく歸着して年来の願いと叶へる事と喜びあへるも
偏いふも國王乃御恩次小先祖の神蔭ふふ事とかへも
久そそ忝く不慮小泪とぞがれぬ是より家小歸り妻子
どもよもの歡よろこんままでの事を記しし今もそのくあらぬま

今日始（？）

筑紫紀行卷十終

文化三年丙寅九月

書肆

同	名古屋	同	江戸	同	大阪	同	京都
永樂屋東四郎	風月堂孫助	永樂屋五兵衛	鶴屋喜右衛門	敦賀屋九兵衛	河内屋太助	吉田新兵衛	梶川七郎兵衛

